

交通政策

くろい えき しゅうへん

黒井駅周辺地区

(新潟県上越市)

- 計画期間 平成18年度～平成22年度
- 面積 669ha
- 交付対象事業費 766百万円
- 市人口 194,132人 (地区内人口 5,860人)

ポイント 鉄道とコミュニティバスの連携による交通結節機能の強化

地区概要 黒井駅の駅前広場と自由通路整備、コミュニティバスの運行により交通利便性を向上するとともに、駅周辺の未利用地への民間開発を誘導し、賑わいを創出する。

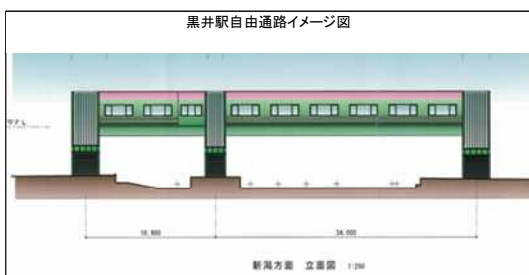
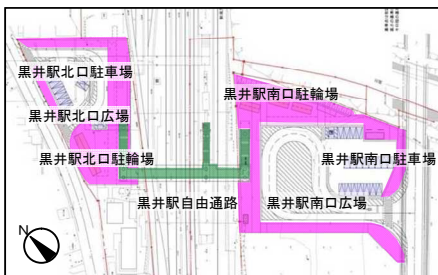
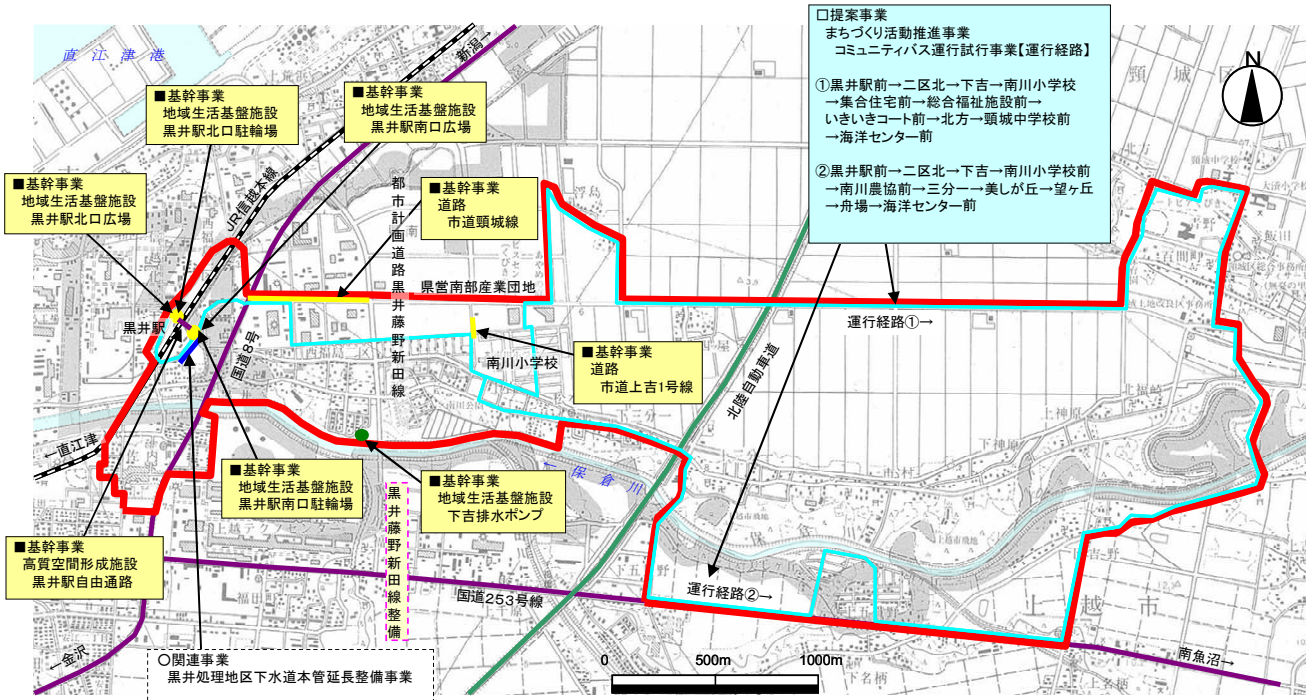
目標 黒井駅を拠点とした駅周辺の一体的整備による交通利便性の向上と暮らしやすいまちの創造。

指標 駅への交通利便性の向上や交通結節点としての機能強化や暮らしやすいまちとしての熟度を目標とした。

バス利用率	7.5% (H15)	→	15.0% (H22)
黒井駅の乗降客	434人 (H16)	→	500人 (H22)
(仮)黒井駅南口駐輪場の年間利用台数	-台 (H17)	→	28,000台 (H22)
地域住民の満足度(生活)	65.4% (H11)	→	90.0% (H22)
地域住民の満足度(安全)	58.9% (H11)	→	90.0% (H22)

事業内容 基幹事業 (748百万円) → 道路 (幅員 9m、延長 615m)、道路 (側溝改築 108m)、駅前広場 (2カ所、4,160㎡)、自動車駐車場 (2カ所、980㎡)、自転車駐車場 (2カ所、550㎡)、駅自由通路 (幅員 3m、延長 52.5m)、排水ポンプ (1基)

提案事業 (18百万円) → コミュニティバス運行



凡例	
—	事業区域
●	基幹事業(広場)
—	基幹事業(自由通路)
—	基幹事業(道路)
●	基幹事業(排水ポンプ)
—	提案事業(巡回バス)
—	関連事業(下水道)
	その他主要プロジェクト

地区の現況と課題

黒井駅周辺の地区は、信越本線により南北に分断されており、駅が線路の北側にあることから、駅利用者並びに南北の連絡交通は駅構内直江津寄りにある西福島踏切を渡るしかないのが現状である。鉄道によって分断された地域の一体化を図り、安全な歩行空間を確保するとともに、バス及び鉄道の利用促進と、公共交通機関の有機的な連携等による交通結節点としての機能を強化する必要がある。また、生活幹線道路である市道頸城線の早期改良が課題である。



▲ 北口広場整備前



▲ 北口広場整備後



▲ 駅北口と南口を結ぶ自由通路



▲ 南口広場整備前



▲ 南口広場整備後

提案事業の特徴

コミュニティバス運行試行事業

駅前広場の施設等を有効に活用するとともに鉄道と連携し、交通結節点としての機能強化を図るため、黒井駅を発着点として小学校や総合事務所などの公共施設を結ぶコミュニティバスの運行を試行する。



▲ コミュニティバス運行試行

計画策定プロセス

パブリックコメントによる意見の集約

自由通路の整備に関して、パブリックコメント（市民意見提出制度）を実施し、整備する施設等について広く市民の意見を求め、施設の整備内容に反映させている。

ユニバーサルデザインの検討

駅周辺施設の整備においては、高齢者や障害者等が安全かつ快適に利用できるように配慮した整備を進めるため、高齢者や障害者、事業者、学識経験者、関係行政機関の職員などからなる人にやさしいまちづくり推進会議で検討し、視覚障害者誘導ブロックの設置といった基本的な内容のほか、手すりの材質、階段端部の処理まで細かな検討を行った。